小林史郎

こばやし・しろう

福山誠之館校長（第30代）

経　歴		
生：昭和12年（1937年）2月24日、樺太庁真岡市生まれ、本籍地：福山市草戸町		
没：平成21年（2009年）8月10日、享年73歳		
昭和30年（1955年）3月	18歳	広島県立福山葦陽高等学校卒業
昭和35年（1960年）3月25日	23歳	広島大学教育学部高等学校教育科外国語科卒業
昭和35年（1960年）4月1日～40年（1965年）3月31日	23～28歳	広島県立本郷高等学校教諭
昭和40年（1965年）4月1日～55年（1980年）3月31日	28～43歳	広島県立福山葦陽高等学校教諭
昭和47年（1972年）～59年（1984年）	35～47歳	広島県高等学校体育連盟軟式庭球部福山地区委員長
昭和55年（1980年）4月1日～60年（1985年）3月31日	43～48歳	広島県立神辺旭高等学校教諭
昭和60年（1985年）4月1日～平成元年（1989年）3月	48～52歳	広島県立福山葦陽高等学校教諭
昭和61年（1986年）8月1日～9日	49歳	全国高等学校総合体育大会（61インターハイ）軟式庭球部福山大会　総務委員長
平成元年（1989年）4月1日～5年（1993年）3月31日	52～56歳	広島県立福山誠之館高等学校教頭
平成5年（1993年）4月1日～7年（1995年）3月	56～58歳	広島県立油木高等学校校長
平成7年（1995年）4月1日～9年（1997年）3月31日	58～60歳	広島県立福山誠之館高等学校校長（第30代）
平成8年（1996年）4月1日～9年（1997年）3月31日	59～60歳	広島県公立高等学校長協会福山支部長
平成9年（1997年）3月31日	60歳	退職
平成9年（1997年）4月	60歳	学校法人中国学園大学広島県連絡事務所所長
平成10年（1998年）4月	61歳	広島家庭裁判所福山支部家事調停委員
―	―	退職校長会福山支部副幹事長

助走前の不安と期待の時代　小林史郎

私は平成7年（1995年）4月から平成9年（1997年）3月まで2年間勤務させていただきました。
当時は総合選抜制の終焉の時期で、非常に緊迫した毎日であったような気がいたします。

誠之館高校は常に注目の的で、誠之館高校が、例えば、教育課程で新しい試みを実践しようとすれば、周囲から寄ってたかって反対されたことを苦々しく思い出します。
ある教員は、「誠之館高校がどぶに落ちたら助けてくれるどころか、さらに頭の上から石を投げられる。」と述懐しています。
一方、同窓会・PTA は随分以前から「総合選抜解体」「単独選抜実施」を強力にアピールしておりましたので高校としてはその板ばさみの中で、苛立ち、もがいていたのが実状であったと思います。
そういう状況の中でも、前任の「古田校長」のご尽力により「セミナーハウス誠友館」の落成があったり、校内の教育活動の充実に教職員が意識を統一して前向きに取り組めたことはよき思い出となっております。

また、あるとき、同窓会の中で、学校創立百五十周年の記念行事としての「同窓会館の建設」について、誠之館高校敷地内には作らないという動きがあり、大変当惑しましたが、関係者のご努力や、学校側の敷地内建設の懇願を同窓会長が理解して下さり、私の退職間際に敷地内建設が了解され、ほっと肩の荷を下ろしたこともありました。

私が校長として在職した2年間は、陸上競技の「三段跳び」にたとえるならば、助走前の不安と期待に包まれて、目標に向かって精神統一をしている時期であったような気がします。
平成9年（1997年）4月からいよいよ総合選抜制度が廃止され、単独選抜となり、誠之館高校は「進学型総合学科」として、中山校長が助走を開始し、新校舎の落成を実現させながら、美濃校長・山代校長へとつなぎ、今はすでに「新生誠之館高校」として、「ホップ」「ステップ」「ジャンプ」と力一杯飛躍し続けていることを心嬉しく見守っている昨今です。　（出典1）

出典1;『語りて栄光の歴史あり 誠之館同窓会報特別号』、26頁、福山誠之館同窓会編刊、平成13年10月
出典2:『あさひ（第3号） 創立10周年記念誌』、8頁、広島県立神辺旭高等学校編刊、1989年11月9日
出典3:『黎明（第14号）』、80頁、広島県高等学校退職校長会福山支部編刊、平成21年11月

2005年2月1日更新:本文●2005年4月7日更新:出典●2006年3月28日更新:タイトル・本文●2006年5月23日更新:連絡先（削除）●2008年1月30日更新:経歴・本文●2008年3月6日更新:経歴・出典●2009年9月25日更新:経歴●2009年9月28日更新:経歴●2010年8月3日更新:経歴・出典●